



新見市男女共同参画情報紙

りぼん

vol.37
2024.2

“輝く”女性にインタビュー

3月8日は国連の定めた『国際女性デー』です。女性の権利や地位向上、女性活躍に向けた取組が世界各国で行われ、日本でも「女性の生き方を考える日」として各地で様々なイベントが開催されています。

今回のりぼんでは、来月の国際女性デーに向けて、市内で管理職として活躍されているたくさんの方の女性の中から、お一人にインタビューしました。「管理職ってなんだが大変そう」「興味はあるけど、まだ自信がないな」など、働くことやキャリアのこと、悩んでいる方、不安に思われている方、ぜひ今回のりぼんを読んでみてください。



今回の紙面は、国際女性デーのシンボルであるミモザをイメージしています。

▼インタビューの様子



インタビュー一人目

山縣 晴美さん
(新見市 教育部長)

山縣さんは、平成2年に新見市役所に入庁し、商工観光課、会計課、新見公立大学派遣職員など様々な部署を経験した後、子育て支援課長などを経て、令和5年4月に現在の教育部長に就任されました。

Q 現在の仕事内容を教えてください。

A 教育委員会の事務局の部長として、市全体の目標や方針を教育部の中で徹底させたり、調整をしたりしています。それから、教育行政の方向性の検討や管理をしています。

Q 仕事の苦労ややりがいはい?

A 一番難しいのは「説明して理解し、納得してもらう」ことです。政策を決めたときも、それを市民の皆さんや学校の先生、地域の方に説明して納得してもらい実行するというプロセスがあるので、説明責任を果たすスキルはとても大事だと常々感じています。

だからこそ、その政策を苦労して認めてもらい結果に繋がったときはとてもやりがいを感じます。例えば、子どもたちが活き活きと学校に通えるようになったとか、そんな声を聞くと嬉しくなります。

◀ 中学校のドローンプログラミング教育を視察



Q 若手職員だったころ、将来目指すものや夢は何でしたか?

A 私が入庁した時は、まだ女性はお茶くみが当たり前な時代でした。女性は管理職になれるとかなれないとか、目指すものとか、そんな次元にも至っていなかったんです。

Q 部下への配慮や心がけなどはどうしていますか?

A 挨拶や、ありがとうなどの日常的な声掛けを積極的にするようにしています。その中で、徐々に部下も心を開いてくれて、相談しにくれたらなど。日常の積み重ねがきっかけになると思っているので、まずそこを心がけています。

Q ワークライフバランスのために心掛けていることを教えてください。

A 小さなストレスは小さなうちに解消することです。とにかく寝るといいですよ。翌日には結構忘れていたりして、新たな気持ちで仕事に臨めます。

それから、家庭は自分がないと困ると思いますが、仕事は私がいなくても回るんだと、ある意味、深刻にならず(笑)周りの力を借りてやっていこうという、ラフな

気構えを敢えて持って仕事をしています。

Q 仕事で心掛けていることは何ですか?

A 対話や議論を密にするよう心掛けています。その際には、感情的にならず論理的に話をして、納得してもらえるように気を付けています。

若い方に伝えたいのは、人間としての厚みを培ってほしいという事です。私自身の反省点でもあるのですが、育児をしていたときは

子ども中心でなかなか人間関係を広げられなかったことや、思うように仕事のスキルを上げる時間がとれなかったことが心残りです。当時は女性のキャリア志向といった概念を持っておらず、キャリアのための勉強をしよう、人間関係の裾野を広げようとは思いませんでした。ですが、今は女性もどんな管理職に登用される時代なので、そういったところも意識して、厚みがあり、経験・知識豊富な、人間味のある人になってほしいと思います。

山縣部長に聞きました

◆ 教育部長って、実はこんな仕事

会議や協議がとっても多い!

部長職は、部内協議だけでなく、様々な会議への出席が多いです。

教育長のピンチヒッター(代理)もします!

イベントの来賓などに、教育長代理として出席します。美術館でテープカットもしました。

◆ 女性の労働環境は良くなっています

入庁当時は女性職員のお茶くみ制度のほか、デスクでもタバコが吸えたので、妊娠中、つわりの時期はとても辛かったです。育児休業制度も今ほど充実していませんでしたし、育児休業中の社会保険料免除などありませんでした。当時に比べると女性の労働環境は格段に良くなっていると感じます。



Q これから管理職を目指している人や悩んでいる人など、後進へのメッセージやアドバイスをお願いします。

A 女性・男性という性別の違いもですが、色々な人がいて、様々な価値観があつて、その中で多様な意見を出し合え、皆で政策などを組み立てていくことが重要であり、一番良いことだと常々感じています。ですから、女性も、自分に自信を持つて、遠慮せず積極的に意見を言った方がいいですし、そういった意見の出し合いが、最終的に良い結果に繋がるので、これからの組織で大事なことだと思います。

また、高い視点から全体像をとらえることができるよう、若いときから知識や経験を増やすなど、素地を整えておくことが一番大事だと思います。自分にできなかつたことですけどね(笑)



インタビュー二人目

ふじわら
藤原 貴枝さん
(新見市立 野馳小学校校長)



藤原さんは、平成2年に正田小学校で教諭となり、思誠小学校などで勤務された後、神代小学校で教頭に、令和3年4月から現在の野馳小学校で校長に就任されました。

Q 仕事の苦労ややりがいとは？

A 一番に子どもたちや教職員の安心安全を考えているので、コロナなど緊急対応が、適切な判断が必要とされ、一番苦労(配慮)するところです。あとは草取りやグラウンドなどの環境整備も苦労しています(笑)

子どもたちが「校長先生！○○

ができたよ」と笑顔で話し掛けてくれた時や、できなかったことができるようになり成長が見られた時、親になった気持ちになって一緒に喜べるところがやりがいです。

Q 将来目指すものや夢は何ですか？

A 仕事の部分では、先生方や子どもたち、地域の人のつながりを大切に、地域の人など誰もが、学校へ行きたいな、話がしたいなと言ってもらえるようなアットホームな学校づくりをこれから進めていきたいです。プライベートでは、かわいいおばあちゃんになりたいかな。

◀校長先生も、積極的に各学級に入っていきます



Q 学校でのジェンダーや多様性への配慮・事例などを教えてください。

A 「個性重視」「多様性重視」の時代なので、例えば男女兼用の制服の中学校も増えています。

以前小学校でカナダからの子どもを受け入れたときは、ヘアドネーションを希望していた男の子でしたので、髪がすごく長かったのですが他の子どもたちは特に何も思っていないでした。私も、どの子に対しても一人の人間として受け入れ、向き合おうと思います。

Q ワークライフバランスのために心掛けていることを教えてください。

A 自分の好きな言葉の一つが「人生なるようになる」です。あがいてももがいてもなるようにしかならないと普段から思っているのですが、自然に切り換えができていれると思います。それから、やはり家族の協力が大きいです。担任時代は採点など仕事をたくさん持ち帰っていましたが、どんな時も家族が家事の協力をしてくれました。お互いにそれまでのギブ&テ

藤原校長に聞きました

◆校長ってこんな事もしています



これ、私が
作りました！

◆独自の働き方改革「^{デイ}ハート♡DAY」

市の取組の「いっせーのー^{デイ}DAY」(第3金曜日の定時退勤日)だけでなく、私が大好きなハートにちなんで「ハート♡DAY」という野馳小学校独自の取組をしています。今年度から始めたところ、職場の皆さんが、時間を意識して早く帰るようになりました。地域の人でも保護者の人も、職員の働き方改革に理解をしてくださっていてありがたいです。



その日早く帰りたい職員は机に♡マークを飾り、終礼後すぐ帰るというハート♡DAY。月1回以上の取得を呼び掛けています。

◆管理職になるきっかけ

当時の校長先生から声がかかったときは、管理職試験を受けるかどうか悩みました。担任としての道も私には、とても魅力的でしたが、先輩の先生に相談すると、「校長先生もそんな言ってくれとるんじゃけ、受けてみればええが」と後押しされての受験でした。そのときは「え～」と思いましたが(笑)今は、また違った立場から教育活動を見て感じて、体験できていることに「よかった」と感じています。

【問い合わせ先】

新見市男女共同参画情報紙編集委員会事務局
(総合政策課内) ☎@6143

イフという積み重ねがあるので、家族も助けてくれるのかなと思います。□喧嘩しながらですが(笑)やはり、家族がいるからこそ、心身ともに安定が保てるのだと感じています。

Q 仕事で心掛けていることは何ですか？

A 担任でありつつ、友達、お姉さん、お母さんでもありたいと思いつつ、子どもたちの前に立つてきました。

校長になった今は、地域の方や

いろいろな方に支えられているという感謝の気持ちをいつも持ち続けたいと思っています。子どもたちが元気に登校してくれること、送り出してくれる保護者がいること、職員が頑張ってくれること、地域の方が力添えをしてくださること、全てが本当にありがたいことです。

Q これから管理職を目指している人や悩んでいる人など、後進へのメッセージやアドバイスをお願いします。

A 一番大切なのは、人と人との繋がり、心と心の繋がりがだと思えます。周りの人達と一緒に様々なことを経験して、一緒に楽しんだり悲しんだりして、経験値を増やしていくてください。そのために、視野を広げ、また様々なことに感謝をする気持ちを持つていてほしいです。

それから、「立場は人を作る」です。置かれた場所で咲きなさいという言葉もあるように、置かれた立場で、自分の知識やスキルを上げていかなければいけません。

いつまでたっても、人生修行だなと感じます。
また、お互いを理解しながら、でも自分らしくありたいというのも常々思っています。だから若い人たちにも、みんな一人一人良い所を持っているので、自分らしさを輝かせてほしいです。

山縣さん、藤原さん
インタビューへのご協力
ありがとうございました！